

特別支援学級（知的障がい／自閉症・情緒障がい）生活単元学習指導案

日 時 平成25年10月10日（木）5校時

1 題材名 「卒業後の生活をイメージしよう」

2 題材について

(1) 教材について

生活単元学習は、子どもが生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するものであり、今年度本校では、生徒の興味・関心が高い「校外学習」を多く取り入れ、社会生活に必要な資質を育てていきたいと考えた。

一学期には「ふるさと岩手の知られざる謎」というテーマで、インターネットや書籍などで「事前学習」を行った後、盛岡の「岩手県立博物館」と花巻の「宮沢賢治記念館」を訪れた。入手した資料をもとに「事後学習」を実施し、まとめとして、本校の研究テーマである「伝え合う力を高める」言語活動の向上を意識した「校外学習発表会」を実施した。

二学期は、本学級生徒3名中2名が三年生ということもあり、「卒業後の生活をイメージしよう」というテーマで、進路選択に向けた校外学習を計画した。訪問先は志望先の一つである支援学校の高等部で、実際に平日の通勤、通学ラッシュの時間帯に公共交通機関などを利用して、「高校の通学体験」と「学校見学」を行い、通学することの難しさや「高校生活」のイメージを持たせながら進路指導をすすめていきたいと考えた。

さらに3年生に、夏休みに参加した高校の「一日体験入学」や、入学希望者に向けた「教育相談」をふりかえさせることで、1年生にも早めに中学校卒業後の進路についての意識をもたせる機会にしたい。

次時は先輩を招いての、「先輩と語る会」をひらき、「高校と中学校生活の違い」や、中学時代のうちに身につけていきたい力について生徒個々に考えさせる学習へつなげたいと考える。

(2) 生徒について

本校の特別支援学級は、情緒障がい学級（星組）2名と、知的障がい学級（風組）1名で構成されている。

生徒の社会生活能力の実態は様々であり、移動する力「通学」（登下校）に関して、3年男子Aは学区外通学ではあるが、電車でも自転車でも一人で通学できる。3年男子Bは、近距離にも関わらず未だに車で送迎されて登校することが多い。1年男子Cは自宅から3km以上を雨天時も自転車で通学しており、「自力で移動する力」に個人差が見られる。そこで、進路相談をすすめていく上で、生徒の実態や能力に応じた進路先であるかどうかという要素の他に、中学卒業後は、進学先が全て学区外となるので、「毎日の通学」についても考慮する必要があると考える。

また、本校の研究テーマに関わっては、最後まで口を挟まずに人の話を聞く、話の要点をつかむ、質問の意図を理解できる、自分の意見や考えを根拠や理由を含めて話すなどの「言語力」「コミュニケーション能力」にそれぞれ課題を持っている。そこで、授業全般の配慮として、自分の考えや情報を適切な言葉を使って書いたり、発表したり、質問や意見交換したりする「言語活動」を学校生活や教育課程全体を通じて意識して支援していく必要があると考える。進路選択が迫っている時期でもあるので、校外学習で通学体験を実施した後、今までの進路選択活動のふりかえりを行い、できるだけ多く生徒の率直な感想をひきだし、本校の研究テーマに迫りたい。

生徒個々の生活と学習の様子は以下の通りである。

学年・性別	生活の様子	学習の様子
A：3年男子	2年生3学期より学区外通学で電車でも自転車でも自力で通学できる。きれい好きで整理整頓ができ、人と関わりたいと思っている様子ではあるが、大勢人がいる中では、ストレスを感じる事が多く、心配性な面が強い。	国語では音読が得意で、漢字も中1程度は読み書きできる。几帳面なので授業前の準備は、そうとう早く行っていないと気が済まない。 授業中は、先生の説明中に、質問をはさむことが多く、おうむがえしをすることもあるが、おおむね自分の意見は理由を含めて話すことができる。
B：3年男子	体格は大きいが体力は劣っている。自転車のりは、昨年やっとおぼえたが、1.6 kmの通学距離を車で送迎してもらうことが多い。 温和な性格なので交流の生徒からも親しまれており、学校行事が大好きである。生活面では支援が必要な部分が多い。	漢字検定7級に合格するなど漢字の読み書きが得意である。音読は「ど」と「ろ」が混同しがち。ことばの意味理解が困難で、質問の意味がくみとれず、まったく違う答えが返ってくるが多い。発言も思いついた断片を口にする事が多く解説が必要になる事が多い。話を組み立てる力に課題を持っている。
C：1年男子	4人兄弟の2番目で、3.3 kmの通学距離を雨の日も自転車で通学しており、生活面でのたくましがみられる。些細なことで感情的になり、交流の生徒とトラブルになることがある反面、仲よく遊んだり、ともに活動することもできる。	大家族の中で生活しているためか、語彙は豊富である。字を書くことが苦手で時間がかかり、作文に苦手意識がある。漢字の読み書きや音読に課題があるいっぽう、文章問題は得意で質問の意味を理解して、理由を交えて答えることができる。

3 単元の指導目標

- (1) 校外学習に意欲的に参加することができる。
- (2) 体験から高校生活をイメージすることができる。

4 単元の指導計画並びに支援計画

時	学習内容	学習目標	教師の指導・支援
1	オリエンテーション ・第3回校外学習の日程を確認しよう	・校外学習のねらいと日程、持ち物を確認する。	・不安感をもたせないように、以下の点について詳細に打ち合わせをし、行動に見通しを持たせる。 ① 持ち物 ② 集合場所への移動方法 ③ 当日の朝の動き ④ 自転車置き場 ⑤ 駅の集合場所 ⑥ 電車の乗り継ぎ ⑦ 訪問先 ⑧ 帰校後の動き
2	事前学習：1 ・移動方法を確認しよう	・電車の乗り継ぎ、駅から訪問先への道順を確かめる。	・電車の乗り継ぎを時刻表で確かめる。(乗車駅、降車駅、出発時刻、到着時刻、乗車時間、乗り換え) ・電車の混雑状況について予想させ、満員電車の際の行動の仕方について説明する。
3	事前学習：2 ・訪問先について知ろう	・訪問先の特色を知る。	・A校について他の進学先の校名と学校所在地をあげ、中学校卒業後の進学先の候補になることを説明する。 ・B店について、高校卒業後の就労先の一例であることを他の例も示しながら説明する。 ・インターネットでA校、B店について検索し、映像や説明からおおまかなイメージをもたせる。
4 5 6 7	校外学習 ・電車を使ってA校とB店を訪問しよう	・公共のマナーを守って安全に目的地まで行って帰ってくる。 ・訪問先の特色を実際に見学しとらえてくる。	・自動券売機での切符の購入の仕方について、個々について指導する。 ・電車の中では不安感を持たないように声がけをする。 ・電車から目的地までの道順は、地図をみさせて生徒に考えさせる。 ・訪問先で、幅広く見学ができるように、生徒が見過ごしていることについて、注意を促すことばがけをする。 ・歩道の歩き方など交通安全への配慮の仕方を指導する。 ・支出額と残金を計算させ、「会計報告書」を書かせて、実際の残金とあうか確認させる。
8	中間のまとめ ・体験をふりかえり、話し合おう 【本時】	・校外学習と体験入学をふりかえる。 ・中学校生活との違いを考える。	・体験を思い出しやすくするために、写真を時系列に見せ、場面を振り返らせる。 ・掲示の資料を用いて、見ながら答えられるようにする。 ・発言がしやすいように、質問を具体的にし、簡単に答えられるようにする。 ・意図することが分からない答えの時には、伝えたいことを整理させ、再度話しをさせる。 ・興奮して話が止まらない場合は、話しを止める。(B) ・発語までに時間がかかる場合は、せかさずに待つ。(C)
9 10	先輩と語る会 ・先輩から高校生活の様子を聞こう。	・話しを聞いたり質問したりして高校生活のイメージをとらえる。	・話し合いがしやすいように、場の設定を工夫する。 ・質問を自由に出させ、答える順番を整理する。 ・意図することが分からない答えの時には、伝えたいことを整理させ、再度話しをさせる。 ・ポイントとなる事柄を板書する。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・校外学習で行った高校の通学体験と体験入学についてふりかえり、発表することができる。
- ・中学校生活との違いについて考え、発表することができる。

〈「思考力・判断力・表現力等」を育てるための言語活動の充実のためのポイント〉

1	校外学習の通学体験をふりかえり、伝達する。(②)
2	体験から感じ取ったことを表現する。(①)

(2) 指導過程

	学習活動	指導上の留意点「」は予想される生徒の反応	◇教具・◆評価◎個別の手立て
導 入 5 分	1 前時の復習	・校外学習の写真をスライドショーでみせ、校外学習を思い出させる。	◇パソコン
	2 学習課題の把握	・本時の課題について確認する。	
中学校卒業後の高校生活のイメージをつかもう			
展 開 40 分	言語活動② 校外学習の通学体験をふりかえり、伝達する		
	3 校外学習のふりかえり	・通学体験の様子と感想を発表させる。 ・A校の見学をふりかえり、発表させる。 ・B校の見学をふりかえり、発表させる。 ・説明不足や表現が適切でない場合は、再質問をして、表現を考えさせる。	◇写真の掲示物 ◆聞き手に伝わるように話すことができたか。 ◆意欲的に発表することができたか。
	4 体験入学のふりかえり	・B校の資料をもとに高校生活の授業の特徴を確認する。	◇資料の掲示物
言語活動① 体験から感じ取ったことを表現する。			
	5 中学校生活との違いについて考える	・気づいたことを発表させる。 ・通学の難易度が高くなること、忙しい生活リズムになること、実習が増え、体力が必要なことについて気づかせる。	◎個別の手立て A：いつも自信がなさそうなので、ほめる声掛けをする。 B：話しが単文になりがちなので、ことばの組み立てかたを確認する。 C：発語に時間がかかるが、出だしをせかさずに待つ。
終 末 5 分	6 本時の学習を振り返る	・今日の学習をふりかえり、感想を発表する。 「今より忙しい生活になる」「通勤ラッシュの中一人で通学するには練習が必要」「体力をつけなければいけない」「自分ひとりでできることをもっとふやしていきたい」	◆自分の現在の生活とてらし合わせて感想を考えることができたか。
	7 授業の評価と次時の確認	・次回先輩と語る会の実施について確認する。	